

第 12 回環境研究シンポジウム
気候変動と科学技術～考えよう地球の未来！～
の開催について（お知らせ）

（筑波研究学園都市記者会、環境省記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブ、林政記者クラブ、水産庁記者クラブ、経済産業記者会、経済産業省新聞記者会ペンクラブ、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会、気象庁記者クラブ、神奈川県庁記者クラブ同時発表）

平成 26 年 10 月 14 日（火）

環境研究機関連絡会

環境研究を行う国立、独立行政法人及び国立大学法人の 13 研究機関から構成される環境研究機関連絡会は、平成 26 年 11 月 18 日（火）、一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）において、第 12 回環境研究シンポジウムを開催し、各研究機関における環境研究の成果を広く国民にお知らせします。

今回のシンポジウムでは、『気候変動と科学技術～考えよう地球の未来！～』をテーマとして、14 件の講演を行います。また、約 100 件のポスター発表によって、各研究機関における環境研究の最新の成果をお伝えします。

多数の皆様のご来場をお待ち申し上げております。

1. 日 時：平成 26 年 11 月 18 日（火） 12：00 ～ 17：45
2. 場 所：一橋大学一橋講堂（学術総合センター内）
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号
TEL：03-4212-3900
3. プログラム：詳細は別紙参照
4. 参加費：無料
5. 参加登録：参加ご希望の方は、下記のウェブページから登録をお願いします。
<https://www.omc.co.jp/kankyokenkyu/>

6. 環境研究機関連絡会とは

今日発生している様々な環境問題を解決するためには、各専門領域にとどまることなく、これらを含めた総合的視点から、各専門分野の研究を推進する必要があります。

また、環境研究に関する多様なニーズに応え、効果的、効率的な研究を推進していくため、新たな情報交換の場を設け、より一層、連携・協力を緊密にしていくことが不可欠となっています。

そこで、環境研究に携わる国立、独立行政法人及び国立大学法人の研究機関が情報交換し、環境研究の連携を緊密にするため、「環境研究機関連絡会」が平成 13 年に設置されました。

連絡会では、

- （1）環境研究の推進状況の紹介と相互理解
- （2）環境研究の主要成果の紹介

(3) 環境研究の協力・連携・連絡
などを行っています。

7. 環境研究機関連絡会の参加機関（平成26年10月現在）

独立行政法人防災科学技術研究所
独立行政法人物質・材料研究機構
独立行政法人農業環境技術研究所
独立行政法人森林総合研究所
独立行政法人水産総合研究センター
独立行政法人産業技術総合研究所
国土交通省気象庁気象研究所
国土交通省国土技術政策総合研究所
独立行政法人建築研究所
独立行政法人港湾空港技術研究所
独立行政法人土木研究所
独立行政法人国立環境研究所
国立大学法人筑波大学

8. お問い合わせ先：

環境研究機関連絡会 事務局

（独立行政法人物質・材料研究機構 企画部門戦略室 担当：松本）

〒305-0047 茨城県つくば市千現1-2-1

TEL：029-859-2020 FAX：029-859-2025

（独立行政法人防災科学技術研究所 アウトリーチ・国際研究推進センター
アウトリーチグループ 担当：三好）

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1

TEL：029-863-7768 FAX：029-851-1622

9. 会場周辺地図：学術総合センター（神保町駅から徒歩3分、竹橋駅から徒歩4分）



プログラム

【講演会】

- 13 : 00 開会挨拶 (独) 物質・材料研究機構 理事長 潮田 資勝
- 13 : 10 講演 1 海面が冷えると貯まる海の熱 (15 分)
講演者 : (独) 産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門
大気環境評価研究グループ
上級主任研究員 田口 彰一
- 13 : 25 講演 2 気候変動の影響と適応策 (15 分)
講演者 : (独) 国立環境研究所 社会環境システム研究センター
環境都市システム研究室長 肱岡 靖明
- 13 : 40 講演 3 巨大火山噴火が気候・生態系へ及ぼす影響ー地球システムモデルによる
予測ー (15 分)
講演者 : 国土交通省気象庁気象研究所 気候研究部 第一研究室
主任研究官 小畑 淳
- 13 : 55 講演 4 北極海の海水融解は海洋生態系にどう影響するか? (15 分)
講演者 : 国立大学法人筑波大学
生命環境系長 教授 白岩 善博
- 14 : 10 講演 5 全国港湾海洋波浪観測長期データに基づく日本沿岸の季節別波浪特性の
経年変化 (15 分)
講演者 : (独) 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域
海象情報研究チームリーダー 川口 浩二
- 14 : 25 講演 6 気候変動適応に向けた水害ハザード・リスク評価 (15 分)
講演者 : (独) 防災科学技術研究所 災害リスク研究ユニット
主任研究員 大楽 浩司

14 : 40 講演 7 アジアの水災害リスクの評価 (15 分)

講演者 : (独) 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター
水災害研究グループ
上席研究員 徳永 良雄

(休憩 15 分)

15 : 10 講演 8 治水システム理解の深化と気候変動適応 (15 分)

講演者 : 国土交通省国土技術政策総合研究所 気候変動適応研究本部
(河川研究部 水防災システム研究官) 深見 和彦

15 : 25 講演 9 気候変動による森林植生への影響評価と森林適応策 (15 分)

講演者 : (独) 森林総合研究所 植物生態研究領域
チーム長 (気候変動影響担当) 松井 哲哉

15 : 40 講演 10 気候変動と 21 世紀の農業・食料生産技術 (15 分)

講演者 : (独) 農業環境技術研究所
研究コーディネーター 八木 一行

15 : 55 講演 11 気候変動に対する漁業資源の応答と水産業の適応 (15 分)

講演者 : (独) 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 資源管理部
資源管理グループ長 木所 英昭

16 : 10 講演 12 近年の竜巻災害に基づく建築物の被害発生メカニズムの解明 (15 分)

講演者 : (独) 建築研究所 構造研究グループ
主任研究員 喜々津 仁密

16 : 25 講演 13 低炭素化社会を実現する耐熱・耐環境材料の開発 (15 分)

講演者 : (独) 物質・材料研究機構 環境・エネルギー材料部門
先進高温材料ユニット長 黒田 聖治

16 : 40 講演 1 4 地球温暖化の緩和策と低炭素社会 (15 分)

講演者 : (独) 国立環境研究所 社会環境システム研究センター
フェロー 甲斐沼 美紀子

16 : 55 閉会挨拶 国立大学法人筑波大学 生命環境系長 教授 白岩 善博

【ポスター発表】

○ 展示時間 12 : 00 ~ 17 : 45

○ 発表時間 12 : 00 ~ 12 : 45、17 : 00 ~ 17 : 45